

発表番号 25

地域とつながる国有林～赤谷プロジェクトの取組から考える～

林野庁 関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター
上席自然再生指導官 藤澤 将志

1 課題を取り上げた背景

赤谷プロジェクトでは、国有林「赤谷の森」1万ヘクタールを舞台に、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を目標として森林生態系管理に取り組んでいます。

具体的な活動には、人工林の自然林への復元、生物多様性の豊かさの指標となるイヌワシやクマタカの生息環境の質の向上、生物多様性への被害を未然に防止するためのニホンジカによる被害の防止などがあります。一方、これらの取組は生活の場から離れた森林内で行われていること、専門的な知見が必要とされ長期間のモニタリングを伴うことが多いことなど、森林・林業政策に携わる私たち林野庁職員や森林・林業関係者でさえも、その必要性や成果を「自分」や「くらし」との関係で具体的にイメージし、実感することは難しいことです。

本発表では、具体的にどのような活動によれば、生物多様性の復元や保全と「自分」や「くらし」(＝持続的な地域づくり)とのつながりを実感することができるのかを赤谷プロジェクトの取組を事例に考察します。また、それらの活動の中で感じた地域とつながる国有林の姿について発表します。

2 具体的な取組

赤谷プロジェクトは森林生態系管理に必要と考えられ得る7つの視点を持っています。実効性と継続性のある管理を進めるためには森林や自然からの視点のみではなく、地域にくらす「人」の視点が重要です。

赤谷センターでは、「人」の視点について、二つの目標が共に達成できるように地域の内外で積極的に活動を展開しています。

◆Forest + Smile=For-e-Smile

～元気もりもりみ～んな笑顔～

◆森と人、人と人がつながるハート

◆紙芝居「ぼくたち わたしたち のこと

～一人一人が最高で一人一人が主役～

◆地元小学生などへの森林環境教育プログラムの提供

◆地域のボランティアが運営する放課後こども教室へのプログラム提供



- ◆地域のNPOが主催する「森のようちえん」へのプログラム提供
- ◆みなかみ町観光協会が主催する地域を元気にする「CoCoira」への参画
- ◆町や地域などと連携した赤谷プロジェクト主催の「赤谷の森まつり」
- ◆高校、農林大学校、NPO団体、JICAなどの視察・研修受け入れ
- ◆総合大学での講演活動

3 取組の結果

取組にあたってさまざまな組織・人と連携し、取組に係わる関係者が増えるほど、アイデアやできることが増えていきました。活動の場、予算、運営について、関係者が「人・もの・金」といった資源を出し合い、一緒に取り組むことで、みんなが主役でそれぞれが出番を見つけて連携するという好循環が生まれています。

専門知識がなくても地域の目指す姿を共有し、一緒に実現に向けて取り組む中で、赤谷プロジェクトやプロジェクトに取り組む国有林の取組への理解を得られるとともに、地域の実情を把握しさらに取組にいかすことができている。

4 まとめ

これらの活動を通じて感じるのは、目的や目標を掲げ、それが達成されるとどんないいことが起きるのか、どのように世界が変わるのかということ発信し、伝え続け、できることをやり続けていくことで、共感してくれる方、協力や支援してくれる方が現れ、活動の環が広がっていくということです。それは、赤谷プロジェクトや国有林の取組の理解者や支援者を増やし、つながりを生み育て、翻って私たちの仕事や森林・林業、さらには地域の魅力となり、ともに働く仲間や支援者を増やすという好循環を生みます。

赤谷センターでは、今後も脊梁山脈に位置し、様々な動植物のすみかであるとともに私たちの生活の基盤である国有林だからこそ伝えられる、「森と人とのつながり」を発信し、国有林のモデルプロジェクトとして、森と人、人と人をつなげる、つながりを結び直していく取組を進めていきます。

私たち一人一人の一つ一つの取組が国有林の取組や森林・林業の発展、生物多様性条約で世界が目指す「人と自然とが共生する世界」の実現に向けた一歩です。

